

第9回資源管理手法検討部会の結果について

令和4年12月12日
水産政策審議会
資源管理分科会
資源管理手法検討部会

令和4年11月21日（月）に開催された第9回資源管理手法検討部会（カタクチイワシ瀬戸内海系群）で整理された論点及び意見は次のとおり。

● 漁獲等報告の収集について

- 現場に負担のかからない報告体制を構築する必要がある。
- 報告の必要性を漁業者に説明し、理解を得るべき。
- 報告義務の適切な履行の観点から、電子的な報告体制の整備を進めてほしい。
- シラスと交じりで報告される場合の漁獲量の集計方法について検討する必要がある。

● 資源評価について

- 資源評価や将来予測の精度の改善に向けた取組を引き続き進めるべき。
- 資源評価におけるシラスの扱いや考え方について、漁業者に丁寧に説明してほしい。
- サワラやスズキ等の魚種による捕食の影響について、カタクチイワシの自然死亡率を変化させた場合の感度分析等により、可能な範囲で影響を評価してほしい。
- 瀬戸内海系群を1つの系群とする根拠を示してほしい。
- 加入量の推定方法、資源量及び親魚量の関係性、再生産関係式など、資源評価の妥当性について丁寧に説明すべき。
- 将来予測の結果において、親魚量と漁獲量の計算に含まれる年級群が異なることから、その点について丁寧に説明すべき。

● 資源管理について

- 複数の漁獲シナリオを図示した上で、漁業者に説明すべき。
- これまでの資源の動向や環境要因を踏まえたもの、漁業者の自主的取組（禁漁期の設定、漁獲サイズの制限）を考慮したものなどを検討する必要がある。
- 柔軟かつ迅速なTAC管理ができる仕組みを明示する必要がある。
- 地域経済への影響も踏まえた漁業継続を可能にする包括的な経済的支援も検討してほしい。
- シラスの数量管理は、適切に資源評価が可能となるまで慎重に検討してほしい。

● SH会合で特に説明すべき重要事項について

- シラスの漁獲が資源に与える影響を可能な限り評価し、説明してほしい。
- シラスの資源管理の現状について整理し、管理の方向性について説明してほしい。
- TAC管理にあまり馴染みがない関係者が多いと思われるため、TAC管理の概要やTAC管理を導入することの必要性について丁寧に説明してほしい。また、経営面での支援策を提示してほしい。
- 漁業者の理解を得るため、具体的な管理措置について説明してほしい。
- TACの配分方法についてもSH会合の中で議論すべき。
- 漁業者による自主的な取組を含め、TAC管理を含めた全体としての効果的な資源管理方法を検討すべき。

（以 上）